

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第723号 平成26年4月18日

学力向上と塾（1）

4月2日付北海道新聞夕刊に、興味深い記事が掲載されていました。

その内容は、空知管内雨竜町が民間の学習塾と連携し、町内の小学5年生から中学3年生を対象に学力向上講習「ジュニアスクール」を開講することになったというものです。

雨竜町教育委員会によると、昨年の全国学力調査の成績が振るわなかったことについて「家庭学習の習慣が身に付いていないことが要因」と分析し、学校での取り組みと同時に放課後の学習習慣を身に付けられる様、塾のノウハウを活用することにしたと述べています。

雨竜町の村本教育長は「学力向上に学校も努力しているが、町としてもできることをやる（4月2日付北海道新聞から）」と話している様ですが、道内の自治体で、民間の塾と連携して学力向上策に取り組むというケースは初めてではないかと思えます。

なお、講習は町公民館で行い、受講は希望制で、小学生は週1回60分、中学生は週2回各70分。月謝は小学生2千円、中学生5千円と格安に設定。塾に対する指定管理料は年間280万円で、実質的に受講料の一部を町が補助することで多くの子どもの参加を促すとしています。

今回の新聞記事を見て一番に思い出したのは、かつて杉並区立和田中学校の校長だった藤原和博氏が始めた「土曜寺子屋」と「夜スペシャル」の取り組みです。

これらの取り組みを簡単に紹介しますと、まず、「土曜寺子屋」というのは、成績下位層を対象とする補習授業で、土曜日にボランティアにより行われているものです。また、「夜スペシャル」というのは、成績上位層を対象に大手有名進学塾が実施主体となって放課後や夜間に行われている授業で、受講料は1万円～2万円となっています。

この様に、「土曜寺子屋」はボランティアが、「夜スペシャル」は大手進学塾がそれぞれ行うこととした理由について、藤原氏は次の様に述べています。

まず「土曜寺子屋」については、「杉並区の中学校の中には、教師たちが土曜日に学習活動を補完するべく立ち上げた土曜日学校もあったが、和田中では、あえて教師の手を借りずに一線を画して、地域主催の自主的な学びの場とした」としていま

す（同氏著「つなげる力」から）。

つまり、藤原氏には、子ども達の学びを充実させる為に、学校と地域とをしっかりと繋げて行こうという強い意図があったのだと思います。ちなみに、文部科学省による学校支援地域本部事業は、この和田中学校の取り組みがベースになってスタートしたものです。

次に「夜スペシャル」を始めた理由について、藤原氏は「吹きこぼれを作ってしまうのが公立校の最大の弱点の一つだと気づいたときから、これを何とか解決したいと考え抜いてきた」と述べています（同氏著「つなげる力」から）。

「吹きこぼれ」というのは「落ちこぼれ」の逆で、勉強意欲は高く成績も優秀だけれども、学校での授業が物足りないと感じている児童生徒のことをいいます。

藤原氏が、大手進学塾と提携し、成績上位者を対象とした特別授業を導入しようとしたのも、出来る子は更に伸ばす教育を実施して「吹きこぼれ」を解消したいという発想によるものといえるでしょう。和田中学校では、「夜スペシャル」の実施に伴い進路指導が強化されると共に、教師が塾の講師との交流を通じて良い意味での刺激を受けている様です。

こうした和田中学校の取り組みに対しては、学校が塾化する等と懸念する声がある一方で、子ども達にとっては安い経費で学習の機会が広がるという観点から評価する声もあり賛否は分かれています。雨竜町の取り組みについて、皆さんならどう考えますか。（塾頭：吉田 洋一）